

みんなの環境

第5号 2006年12月9日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/

11月の環境ニュース

TODAY BIRDS TOMORROW MEN

11月6日から17日まで、ケニアのナイロビで、地球温暖化防止に向けた京都議定書の第2回締約国会議と、親条約である気候変動枠組み条約の第12回締約国会議（COP12）が開催されました。

地球温暖化に関して先進国と発展途上国の溝を埋めるのは難しく、重要なことは先延ばしの感がありますが、期間中や前後を通して注目されるいろいろなショッキングな発表がありました。

「CO2濃度：昨年観測史上最高を記録 世界気象機関報告書 11/4 毎日・日経」

「地球温暖化、経済リスクは大恐慌なみ 英政府が報告書 11/4 朝日」

「温室効果ガス：主要先進国の排出、過去最大に 11/5 毎日」

「2030年にはCO2排出5割増か 世界エネルギー展望 11/8 産経」

「京都の紅葉、近年色づきに遅れ・気象庁「温暖化が原因」 11/11 日経〔共同〕」

「温暖化被害、2040年に1兆ドルも・国連環境計画 11/16 日経」

などです。

その中の一つ、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、世界自然保護基金（WWF）からは次のような発表がありました。「地球温暖化：鳥類絶滅の恐れ WWFがナイロビで試算公表（毎日新聞11月15日）」

“気温が現在より1.5～4.2℃上昇するとされる2080年には、豪州で最大7割、欧州や南アフリカで4割の鳥類が絶滅する恐れがある。WWFは「鳥類は環境変化の指標で、温暖化問題では、炭鉱で有毒ガスを察知するカナリアのようなものだ」と指摘、各国に温室効果ガスの排出削減を訴えた。”

温暖化が進むと、生物の分布帯が変わったり、生息適地がなくなったりして多くの種が絶滅することが考えられます。鳥に限らず、今絶滅危惧種と言われているようなものにはそのようなものが多いと考えられます。

人間にとって危機となる前兆のお知らせのようなものです。

私たちは、身の回りの生きもの様子にも注意深く目を向けて、見守り、警告を読み取っていくことが必要ではないでしょうか？

(KADO)

あつぎ環境市民の会では2007年度の会員を募集しています。お近くの会員にお問い合わせください

企業が取り組む環境保全 ②

アンリツ厚木事業所

9月22日、私たちは、厚木市恩名にあります、情報機器製造のアンリツ株式会社厚木事業所を訪問しました。

車からおりて玄関に立ち「わー！」と、思わず声を上げました。建物の側面に【地球温暖を防ごう、夏の軽装実施中】の大きな垂れ幕が掛かっており圧巻!! 企業の頑張りを肌で感じました。これならみんなびっくりして、危機感を感じる分かりやすく効果的なアピール方法に嬉しくなりました。



高杉環境推進担当部長さんをはじめ皆さんが快く迎えてくださり、会社の環境保全活動の取り組みを、アンリツCSR報告書2006や社内報を参考資料としてご説明してくださいました。

- ・会社の経営理念

地球規模で問題を捉えて「誠と和と意欲」を経営の基本的価値観とする

- ・二酸化炭素の削減を実現した具体的実践方法は？

環境省が提唱している国民運動「チーム・マイナス6%」に参加、夏期のクールビズ、秋・冬期のウォームビズに伴う温度調整で、厚木地区、棚沢地区、東北地区合わせて892MWhの節電で209トンのCO₂を削減効果があった

- ・ゴミの分別について

30分別以上・・・電池だけでも4分別でした。

5月、デンマークを訪れた時、スーパーやコンビニの棚にすり傷のあるペットボトルが一般的に見られ20回以上リユースされていたそうです。ご自分でペットボトルに詰め替えをされて廃棄抑制をしているお話は素敵でした。社内も自動販売機が少なく、心が穏やかになる気がしました

- ・社員の教育について

新入社員の教育では「エコ設計/製品解体実習」のテーマで自社製品を解体の実習をし、環境配慮型製品の開発にいかして欲しいという



(狩野光子)

この機関紙にみなさんの環境への思いや情報を載せましょう。原稿は随時受け付けています

～ やわらかい自然とのつき合い文化に向けて ～

雑木林の再生活動

高橋弘毅

取組みのキッカケ

- 1) 住居に接した雑木林が、荒廃しつつあり景観も損なわれていた。
 - 2) 住居から離れた郊外に行き、里山づくりや公園の手入れをボランティア活動に参加している人が居りました。
 - ・身近な場所を隣組有志で、雑木林の手入れに取組めば、いろいろ効果があるだろう。
 - ・雑木林の再生作業活動で、地球温暖化予防に貢献もあるだろう。
 - ・高齢者の運動不足や自然環境学習の場所としても期待が出来るだろう。
- 等と地主の許可をいただき、平成18年3月より活動を開始しました。

活動名称

「はつらつ雑木 依知南の会」

依知南地区いきいきプラン活動として設立・運営開始は平成18年10月。

対象は小学5年生以上の男女とし、何時でも受け入れることとしました。

活動場所： 厚木市金田&下依知地区の傾斜地に面した雑木林。

活動頻度： 毎月1回第一日曜日9:00～12:00を基本としています。

目的

依知南地区の雑木林を再生しながら、自然環境保全・管理を通じた、自然環境の学習、ロープ結びや用具の扱い技能の学習など、また世代間交流の場とした活動を自分自身の手で、取組むことを目的とし結果として、地球温暖化予防活動に貢献する。



下草を刈り取り雑木林を整備した



人が入れないほど荒廃していた

再生指針

- ・ 伐採物はゴミ扱いせず現地で自然に戻す。(現場自然腐蝕) (構築物製作に樹脂類や金属類の利用はしない)
- ・ 自然環境学習の場として、①太陽光のふりそそぐ地表に実生から樹木が育つ領域づくり ②番傘を差して通れる雑木林 ③樹木は多いが下草除草のみの 以上三景観領域に構築する
- ・ 樹木活用の遊具や幼児おもちゃ作りなどにも挑戦します。

狩野光子さん（あつぎ環境市民の会 代表）

ソロプチミスト日本財団より 環境貢献賞を受賞

11月28日、福岡国際会議場でソロプチミスト日本財団・山下淑子理事長から環境貢献賞が贈られました。3084名の出席者に見守られ、狩野光子さんは落ち着いて、環境問題に取り組む受賞者を代表して、篤く謝辞を述べられました。厚木からの参加者15名は会長を初め、大きな拍手を惜しみませんでした。

環境問題に取り組む実践 認められ

地球規模で環境問題が大きくなっている今、ソロプチミスト厚木は認証から36年、そして1979



謝辞を述べる狩野代表

年財団認可により継続して活動してきました。昨年“みんなの環境展”を視察した会員が環境貢献賞の候補者として、あつぎ環境市民の会の狩野さんを紹介してくださいました。早速、推薦したいと訪問しとき、狩野さんが考案開発された環境紙芝居「しろいるかのぺぺちゃん」や小学生の環境学習資料などをみせて頂き、ソーラークッカーで調理されたチーズケーキをご馳走してくださいました。お庭にお茶の木や、ゲンノショウコがあり、生ごみを堆肥にする処理など、美しい地球を守るための努力を地道に続けていらっしゃる事に感動しました。

全国からたくさんの応募があり、その中から環境貢献賞10件中に選ばれました。また、環境貢献賞受賞者代表の謝辞も狩野さんにと依頼が来たことはソロプチミスト厚木の大きい誇りです。
(国際ソロプチミスト厚木財団委員長 中倉マキ子)



狩野光子さんの話

栄誉ある賞をいただき、これからも子どもたちのために美しい地球を守るための努力をして行きたいと思います。また、この賞は「あつぎ環境市民の会」の会員、スタッフみんなの努力が認められたものと感謝いたしております。ありがとうございました。

○.....○

みんなの環境展2007

日時 2007年2月3日(土)10:00~18:30

2月4日(日)10:00~16:00

会場 厚木市文化会館・4階集会室 (厚木市恩名 1-9-20 TEL046-225-2588)

主催☆あつぎ環境市民の会 お問い合わせ 電話046-224-5010 (狩野)

後援☆ 神奈川県・神奈川県環境科学センター・厚木市・厚木市教育委員会・NPO法人神奈川県自然保護協会